浜松市立東部中学校　　Ｒ６学校評価まとめ

Ａ：3.5～4.0　Ｂ：3.0～3.49　Ｃ：2.99～0.0

評価内容			Ｒ４	Ｒ５	Ｒ６		自己評価	学校関係者評価
豊かなつながりを生み出す生徒指導	①教職員は、子ども一人一人を理解し、大切にしている	生徒	3.39	3.51	3.48	B	生徒との関わりにおいて、教職員が一人一人を尊重し、成長につなげるための必要かつ適切な指導が恒常的に行われていると言える（①・②・③）。自主性を育てるという名のもとに生徒を放任するのではなく、全ての教職員が「生徒の心に火を点ずる」ことを念頭に置き、生徒一人一人の成長に徹底して関わる指導を心掛けたい。	
		保護者	2.67	2.81	3.06			
	②教職員は、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を、子どもに身に付けさせている	生徒	3.39	3.52	3.70	A		
		保護者	3.18	3.15	3.18			
	③教職員は、子どもの間違った行動に対して適切に指導している	生徒	3.60	3.65	3.67	A		
		保護者	3.07	3.08	3.14			
すべての子どもの学びを支える学習指導	④学校は、基礎的な学力が身につくようにわかりやすい授業をしている	生徒	3.49	3.51	3.53	A	日々の授業や学習指導に対しての生徒からの評価は安定して高く、保護者からの評価が年々向上していることから、担当教師が変わっても、質の高い指導を定常的に行うことができていると言える（④・⑤・⑥）。 家庭学習についても生徒・保護者の評価は向上しており、課題や単元テストの内容や形態、量やタイミングなどを検証し、実践してきたことが成果となって表れていると言える（⑦）。生徒に求める学力は、「不易」にあたるものもあれば、「流行」にあたるものもあるので、研修や教科での検討会を継続して実践していきたい。	
		保護者	2.97	2.97	3.05			
	⑤教職員は、子どもの興味や意欲を高める授業を工夫している	生徒	3.35	3.42	3.40	B		
		保護者	2.92	2.94	3.01			
	⑥学校は、子ども個々に応じた学習の手助けを行っている	生徒	3.53	3.55	3.53	A		
		保護者	2.61	2.81	2.80			
	⑦家庭では、自主的、計画的に学習に取り組んでいる （保護者）家庭では、お子さんによりよい学習習慣が身につくように意識している	生徒	2.57	2.99	3.01	B		
		保護者	2.95	2.89	3.03			
安心して学べる学校環境	⑧教職員は、安全で、安心できる学校、学級づくりに取り組んでいる	生徒	3.39	3.52	3.43	B	多くの生徒にとって、学校は安心・安全な場になっていると言える（⑧・⑨）。今後も「いじめはどの子供にも、どこでも起こりうる（浜松市いじめの防止等のための基本的な方針より）」という意識を持ち、生徒が放つ些細なサインを見逃すことがないよう、生徒の言動に注視していく。なお、表面化しない隠れた部分で不適応が起こっている可能性は常に否定できず、生徒が気軽に相談できる雰囲気をつくることが不可欠である。	
		保護者	3.18	3.15	3.19			
	⑨教職員は、「いじめ防止基本法」に基づいて、いじめ行為の未然防止、いじめ対応、いじめ行為の再発防止に適切に対応している	生徒		3.48	3.52	A		
		保護者		3.08	3.10			
ともに育つ地域・校種間連携	⑩地域行事やボランティア活動に積極的に参加している （保護者）家庭では、お子さんが地域行事やボランティア活動に参加するようにうながしている （教職員）ボランティア指導は適切であった	生徒	3.35	2.39	2.28	C	多くの教職員が東中塾、面接練習会、キャリア講座などを通した地域の支援を実感している（⑪）。その一方で、学校運営協議会に対するプレゼンスの少なさは否めない（⑫）。全ての教職員が地域とのつながりを大切にし、教育活動に反映していこうとする意識を持てるようになる仕組みが必要である。 ボランティア活動については、その意義を認めつつも、休日の過ごし方の選択肢の一つでしかないと、捉えている生徒・保護者は多い（⑩）。社会貢献活動に参加することは、視野を広げたり、自主性を身につけたりすることにつながるので、週末や長期休業などを利用した参加を促していく必要がある。	
		保護者	2.70	2.65	3.00			
		教職員	3.01	3.15	3.53			
	⑪地域人材の活用は適切であった	教職員	3.02	3.03	3.06	B		
	⑫コミュニティ・スクールの運営は適切であった	教職員	3.23	3.06	2.97	C		

	評価内容		R４	R５	R６		自己評価	学校関係者評価
双方向的な家庭とのかかわり	⑬学校は、三者相談や教育相談が充実しており、相談しやすい	保護者	2.96	2.93	3.01	B	学校が家庭・地域と連携・協力できていないと考える保護者が多く（⑭）、その要因として情報発信の不十分さが挙げられる（⑮）。全員チーム担任制の導入に伴い学級通信の発行を廃止したことで、学級での様子が伝わりにくくなった可能性が考えられる。日常の様子をどのような形で発信していくべきかを検討する余地がある。	
	⑭学校は、家庭・地域と積極的に連携・協力している	保護者	2.92	2.98	2.67	C		
	⑮学校は、たよりやホームページなどで情報をよく発信している	保護者	3.03	3.17	2.86	C		
	⑯授業参観会、教育相談、三者面談の運営は適切であった	教職員	3.5	3.30	3.28	B		
前向きで活動的な学校文化	⑰学校生活は楽しい （保護者）お子さんは、学校生活を楽しいと感じているようである	生徒	3.57	3.62	3.58	A	学校生活については生徒･保護者の評価は高い数値で安定しており、満足度は高いと言える（⑰・⑱・⑲）。学校を取り巻く環境が大きく変わる中で、新しい学校づくりに携わることができる喜びと責任を感じつつ、よい方向に転換する柔軟な発想をすべての教職員が持って、責務を果たしていく。	
		保護者	3.22	3.32	3.33			
	⑱学校行事は楽しく、充実している （保護者）お子さんは、学校行事を楽しみにしている （教職員）文化活動発表会、体育大会の運営は適切であった	生徒	3.53	3.69	3.65	A		
		保護者	3.32	3.46	3.44			
		教職員	3.02	2.44	3.28			
	⑲部活動は楽しく、充実している （保護者）お子さんにとって部活動は、充実した活動になっている （教職員）部活動指導は適切であった	生徒	3.15	3.62	3.62	A		
		保護者	3.28	3.38	3.37			
		教職員	3.11	2.79	3.09			
戦略的で柔軟な学校運営	⑳将来の進路や職業について学んだり、考えたりしている （保護者）お子さんんは、学校で将来の進路や職業について学び、考えている （教職員）総合的な学習における３年間を見通した指導は適切であった	生徒	3.01	3.04	3.27	B	進路指導、キャリア教育における生徒、保護者、教職員の評価は右肩上がりに良くなっている（⑳・㉑）。総合的な学習の時間において、来年度からはシヅクリの提供するプログラムから離れ、本校独自の活動を展開していくことになる。職場体験活動・キャリア講座をベースにし、事前・事後には意味を持たせる指導を丁寧に練りこんでいく。さらに、それぞれの目的を生徒に確実に伝え、どのような力が身についているのかを、生徒自身に実感させる必要がこれまで以上にある。 全員チーム担任制や水曜日の放課後の活動について、教職員の充足度は高くはなく、最優先の懸案事項になっている（㉒・㉓・㉔）。「情報共有の機会を十分に持てない」「責任を伴った指導につながりにくい」「生徒も教職員もやるべきことが時間のわりに多く、腰を据えた活動ができていない」など挙がった意見を整理したうえで、問題の所在を明らかにし、改善策を講じていきたい。	
		保護者	2.72	2.78	3.00			
		教職員	2.95	2.41	2.85			
	㉑キャリア教育は適切であった	教職員	3.10	3.18	3.33	B		
	㉒全員チーム担任制（Ｒ５は学年担任制）により複数の教員が様々な視点で生徒を見ることで、生徒のよさを共有したり、小さなサインや変化を生徒の成長につなげられている。	教職員		2.80	2.91	C		
	㉓全員チーム担任制において「働きがい」を見つけることができている	教職員		2.20	2.14	C		
	㉔水曜日の放課後の活動（東中塾、学級運営委員会など）はうまくいっている	教職員		2.70	2.56	C		
気持ちのそろった教職員集団	㉕学校教育目標「自らの可能性に挑戦し続ける生徒の育成」、スローガン「THINK CHALLENGE　CREATE」を意識しながら教育活動に携わることができた ＊Ｒ５スローガン「THINK & CHALLENGE」、Ｒ４「CHALLENGE」	教職員	3.20	3.18	3.13	B		
	㉖組織で指導・支援にあたることで、各々がもつ知識や技術を学ぶ機会を得ることにつながっている	教職員		3.07	3.00	B		

＊Ｒ４・Ｒ５・Ｒ６にある数値は、アンケートにおける回答を点数化した数値（そう思う：４点、だいたいそう思う：３点、あまりそう思わない：２点、そう思わない：１点）の平均値であり、Ａ・Ｂ・Ｃの３段階で評価している。
＊評価内容にある８つのカテゴリは、「スクールバス・モデル －力のある学校の８つの要素－ 」からの引用である。（ 参考文献：志水宏吉「公立学校の底力」ちくま新書 ）